

Title	矢野久略歴・ 主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2016
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.81 (2016.) ,p.136- 142
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2016年度定年退職者略歴・ 著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000081-0136

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

体国際化協会 大会議室」

- 2010年10月23日 「(講演) オーストラリアの多文化共生の軌跡」岡山国際交流協会 岡山国際シンポジウム, 第1部10:00-12:00, 岡山国際交流センター2階 国際会議場
- 2006年 5月21・28日 「(講演) オーストラリアについて(全2回)」①多文化主義国家オーストラリアへの軌跡」「②アジア・太平洋国家オーストラリアへの軌跡——日豪交流2・2世紀」川崎市国際交流協会国際理解講座『ワールドカップの対戦国と開催国について知ろう』川崎市国際交流センター会議室
- 2011年 7月23日 「(講演会) 移民社会多文化オーストラリアから学ぶ共生のコツ」杉並区交流協会『講演会: 外国文化を知ろう&インターナショナルスクール見学』9時30分~11時10分, あんさんぶる荻窪(4階)
- 2015年 7月 7日 「オーストラリアの魅力~オーストラリアってどんなところ?」練馬区海外友好協会『練馬区海外友好都市紹介講座』午後6時00分~20時30分練馬区役所(最上階ホール)
- 2013年 8月 6日 「(講義) オーストラリアの多文化主義とマイノリティ」特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター(KFC)主催『多文化共生を考える研修会2013』国際健康開発センター交流ホール(神戸市中央区)午後1時30分~3時00分」
- 2015年 7月29日 「オーストラリアと35年——オーストラリアの過去・現在・未来」関西日豪協会主催『西日豪協会定期総会講演会』午後5時00~6時00分, 大阪ホテルオークラ2階ホール
- 川崎市立橘高校オーストラリア研修旅行のための研修授業「①オーストラリアの歴史」「②日豪関係の歴史」2004年から, 年2回(90分授業)を提供
- 2006年日豪協力友好条約30年記念豪日交流基金・国際交流センター共催『豪州講座』(全10回)のコーディネーターを担当。

*最近10年間のみ掲載

矢野 久 (やの ひさし)

〈学歴〉

- 1973年 3月 慶應義塾大学経済学部卒業
- 1976年 3月 同 大学院経済学研究科修士課程終了 修士号(経済学)取得
- 1977年 4月 同 大学院経済学研究科博士課程入学
- 1978年10月 ボーフム・ルール大学社会科学部(社会経済史)博士課程入学
- 1985年 3月 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程 満期退学

〈学位〉

- 1983年6月 ボーフム・ルール大学社会科学博士(Dr. rer soc)取得

〈職歴〉

1985年4月 慶應義塾大学経済学部助手
 1989年4月 同 経済学部助教授
 1996年4月 同 経済学部教授 同大学院経済学研究科委員
 1996年4月～1997年3月 ボーフム・ルール大学客員教授
 2004年4月 慶應義塾大学大学院社会学研究科委員
 2005年4月～2006年3月 ボーフム・ルール大学客員教授
 2015年7月～2015年9月 マールブルク大学客員教授
 2016年4月 慶應義塾大学名誉教授

〈受賞〉

2004年度社会政策学会奨励賞
 2010年度義塾賞

〈研究業績〉

①単著

- ・ *Hüttenarbeiter im Dritten Reich. Die Betriebsverhältnisse und soziale Lage bei der Gutehoffnungshütte Aktienverein und der Fried. Krupp AG 1936 bis 1939*, Franz Steiner Verlag, Stuttgart 1986
- ・『ナチス・ドイツの外国人—強制労働の社会史』現代書館, 2004年
- ・『労働移民の社会史—戦後ドイツの経験』現代書館, 2010年

②共（編）著

- ・『1939—ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』（井上茂子・芝健介・木畑和子・永岑三千輝との共著）同文館出版, 1989年
- ・『ドイツ社会史』（アンゼラム・ファウストとの共編著）有斐閣, 2001年
- ・『ナチズムのなかの20世紀』（川越修との共編著）柏書房, 2002年
- ・『裁判と歴史学—七三一細菌戦部隊を法廷からみる』（松村高夫との共編著）現代書館, 2007年
- ・『大量虐殺の社会史—戦慄の20世紀』（松村高夫との共編著）ミネルヴァ書房, 2007年
- ・『慶應義塾図書館所蔵ドイツ語雑誌解題—経済・社会・歴史を中心に—』（古賀理恵子・谷藤優美子との共編著）慶應義塾大学三田メディアセンター, 2013年
- ・『明日に架ける歴史学—メゾ社会史のための対話』（川越修との共著）ナカニシヤ出版, 2016年

③論文

- ・ “Wir sind benötigt, aber nicht erwünscht”, in: *Fremde Heimat. Eine Geschichte der Einwanderung aus der Türkei*, hrsg.v. Mathilde Jamin u.a., Klartext Verlag, Essen 1998
- ・ “Arbeitsmigration im Steinkohlenbergbau in der Frühphase der Bundesrepublik”, in: *Keio Economic Studies*, vol. 36, no 2, 1999
- ・ “Migrationsgeschichte”, in: *Interkulturelle Literatur in Deutschland. Ein Handbuch*, hrsg. v. Car-

mine Chiellino, Metzler Verlag, Stuttgart/Weimar 2000

- ・ “Anwerbung und ärztliche Untersuchung von ›Gastarbeitern‹ zwischen 1955 und 1965”, in: *Migration und Krankheit*, hrsg.v. Peter Marschalck und Karl Heinz Wiedl, Osnabrück Universitätsverlag, Osnabrück 2001
- ・ “Arbeitsmigration im Steinkohlenbergbau in der Frühphase der Bundesrepublik”, in: *Kulturalismus, Neue Institutionenökonomik oder Theorienvielfalt. Eine Zwischenbilanz der Unternehmensegeschichte*, hrsg.v. Jan-Otmar Hesse u.a., Klartext Verlag, Essen 2002
- ・ “Die Zwangsarbeiterdiskussion in Japan”, in: *Zeitschrift für Genozidforschung*, 7. Jahrgang, Heft 2, 2006
- ・ “I lavoratori forzati nelle colonie giapponesi: un confronto con il caso Tedesco”, in: *Memoria e rimozione: i crimini di guerra del Giappone e dell'Italia*, a cura di Giovanni Contini, Filippo Focardi e Marta Petricoli, Viella, Roma 2010
- ・ 「第二次世界大戦前夜におけるドイツ製鉄業の労働力配分—グーテホフスンクとクルップ鋳鋼工場の分析—」『三田学会雑誌』77巻3号（1984年8年）
- ・ 「ナチス期におけるルール労働市場」『三田学会雑誌』78巻5号（1985年12月）
- ・ 「健康の社会史—ナチス期における労働者の健康状態—」『現代史研究』第33号（1987年）
- ・ 「外国人強制労働への道—『電撃戦』構想下のドイツにおける労働力動員—」『三田学会雑誌』81巻2号（1988年7月）
- ・ 「社会政策思想の成立と展開」西村豁通・荒又重雄編『新社会政策を学ぶ』有斐閣, 1989年
- ・ 「『歴史犯罪学』の成果と展望—西欧における犯罪の社会史的研究を中心に—」（上）（下）『三田学会雑誌』82巻2号（1989年7月）, 3号（1989年10月）
- ・ 「外国人労働者の強制連行・強制労働—1941・42年を中心に—」井上茂子・芝健介・木畑和子・永岑三千輝・矢野久『1939—ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』同文館出版, 1989年
- ・ 「第二次世界大戦下ドイツ民衆の外国人労働者像」『三田学会雑誌』83巻3号（1990年10月）
- ・ 「大戦期ナチス・ドイツにおける女性労働動員」（上）（下）『三田学会雑誌』83巻1号（1990年4月）, 4号（1991年1月）
- ・ 「第二次世界大戦期ドイツにおけるソ連人労働者政策の転換」（上）（下）『三田学会雑誌』84巻3号（1991年10月）, 4号（1992年1月）
- ・ 「第二次世界大戦期ドイツの東部占領地域での労働力調達」（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）『三田学会雑誌』85巻2号（1992年7月）, 3号（1992年10月）, 4号（1993年1月）
- ・ 「『文学的想像力』から『歴史学的想像力』へ—ハウプトマン『織工』と1844年の同時代人の『織工』像をめぐる—」『三田学会雑誌』86巻3号（1993年12月）
- ・ 「ナチス強制収容所の史的展開—その成立から1941年まで—」『大原社会問題研究所雑誌』第423号（1994年2月）
- ・ 「ナチス戦時経済と強制労働」『社会経済史学』第60巻第1号（1994年5月）
- ・ 「犯罪・刑罰—フーコーと下からの社会史」竹岡敬温・川北稔編『社会史への途』有斐閣, 1995年
- ・ 「戦時期におけるナチス強制収容所」『三田学会雑誌』89巻2号（1996年7月）

- ・「戦後西ドイツと外国人労働者—イタリア人労働者導入決定への道」『大原社会問題研究所雑誌』第474号（1998年5月）
- ・「ドイツ強制労働補償基金の歴史的意義—日本の見習うべき道？」『東海史学』第50号（2016年3月）
- ・「西ドイツにおける外国人労働者導入への道」『三田学会雑誌』91巻2号（1998年7月）
- ・「西ドイツにおける労働移民健康政策の史的展開—1962年から1965年—」『三田学会雑誌』91巻4号（1999年1月）
- ・「労働移民と健康政策—西ドイツ1950-1960年代」『大原社会問題研究所雑誌』第488号（1999年7月）
- ・「労働移民とナショナリズム」慶應義塾経済学部編『マイノリティからの展望』弘文堂、2000年
- ・「外国人労働者の導入と西ドイツ労働市場の制度化」『歴史学研究』第742号（2000年10月）
- ・「戦後西ドイツにおけるイタリア人労働者の組織的導入—1955年独伊労働力募集協定の成立をめぐって—」『三田学会雑誌』94巻1号（2001年4月）
- ・「強制連行・強制労働の日独比較」『季刊戦争責任研究』第33号（2001年秋季号）
- ・「ナチス大量虐殺の構造的考察—強制労働・強制収容所・ユダヤ人虐殺—」『三田学会雑誌』94巻4号（2002年1月）
- ・「他者としての外国人労働者」川越修・矢野久編『ナチズムのなかの20世紀』柏書房、2002年
- ・「ドイツの戦後責任と戦後補償—強制労働基金の歴史的意義」『ドイツ研究』第33・34号（2002年6月）
- ・「犯罪史—ドイツ史からの展望」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣、2002年
- ・「ドイツ戦後補償と強制労働補償基金の意義」『三田学会雑誌』95巻4号（2003年1月）
- ・「賠償と補償」倉沢愛子他編『岩波講座 アジア・太平洋戦争8 20世紀の中のアジア・太平洋戦争』岩波書店、2006年
- ・「戦後ドイツにおける外国人労働者の居住の社会史」『三田学会雑誌』99巻3号（2006年10月）
- ・「日本の植民地労働者の強制労働—日独の比較社会史の観点から—」『三田学会雑誌』100巻4号（2008年1月）
- ・「ドイツの過去克服」金富子・中野敏男編『歴史と責任—「慰安婦」問題と1990年代』青弓社、2008年
- ・「日本植民地労働者の強制労働—日独比較の視点から」記録集編集委員会編『南京事件70周年国際シンポジウムの記録—過去と向き合い、東アジアの若いと平和を』日本評論社、2009年
- ・「ナチス・ドイツにおける住民の警察化—日独比較史の観点から—」『三田学会雑誌』102巻4号（2010年1月）
- ・「ヴァイマル共和制初期におけるプロイセン『治安秩序警察』の成立過程—王立国家警察から人民治安秩序警察・治安警察・治安秩序警察へ—」『三田学会雑誌』104巻1号（2011年4月）
- ・「ドイツ近代 プロイセン警察からナチ警察へ—〈現代化〉の先取り？」大日方純夫・林田敏子編『近代ヨーロッパの探求 警察』ミネルヴァ書房、2012年
- ・「1950・60年代西ドイツ歴史学とフランス・アナル学派」『三田学会雑誌』105巻4号（2013年1月）
- ・「『歴史的社会科学』の成立—1960年代から70年代半ばのドイツ社会史群像—」『三田学会雑誌』108巻1号（2015年4月）
- ・「人文科学から社会科学への歴史学の転換—フランソワ・シミアンの歴史的方法批判をめぐって—」

(難波ちづるとの共著)『三田学会雑誌』108巻2号(2015年7月)

④研究ノート

- ・「ナチス後期における労働政策とその実態に関する社会史的考察—1936年秋から1938年6月まで—」『三田学会雑誌』70巻6号(1977年12月)
- ・「ナチス後期における労働政策とその実態に関する社会史的考察—1938年6月から1939年前半期まで—」『三田学会雑誌』71巻3号(1978年6月)
- ・「大戦期ナチス・ドイツにおける『近代化』と『統合』問題—労働と社会に関する最近の研究史を中心に—」『三田学会雑誌』82巻1号(1989年4月)
- ・「歴史人口学の方法論的再検討」『三田学会雑誌』84巻1号(1991年4月)
- ・「ナチズムにおける〈民族同胞〉と〈共同体異分子〉—デートレフ・ポイカート『ナチス・ドイツ—ある近代の社会史—』木村靖二・山本秀行訳(三元社, 1991年)によせて—」『三田学会雑誌』85巻1号(1992年4月)
- ・「社会史の認識論的再訪—松村高夫「社会史の認識論的一系譜—ヴィーコからミシュレへ, さらにフェーブルへ—」に寄せて—」『三田学会雑誌』97巻1号(2004年4月)
- ・「20世紀社会とナチズム—川越修『社会国家の生成』に寄せて—」『三田学会雑誌』97巻3号(2004年10月)
- ・「思想史と社会史の狭間で—川越・植村・野村編『思想史と社会史の弁証法』に寄せて—」『三田学会雑誌』101巻1号(2008年4月)
- ・「戦争責任論から植民地責任論へ—永原陽子編『「植民地責任」論—脱植民地化の比較史—』(青木書店, 2009年)に寄せて—」『三田学会雑誌』102巻3号(2009年10月)
- ・「歴史学とセクシュアリティ—ダグマー・ヘルツォーク『セックスとナチズムの記憶』をめぐって—」(水戸部由枝との共著)『三田学会雑誌』108巻1号(2015年4月)

⑤報告書

- ・「強制労働連邦補償基金構想の挫折と『記憶・責任・未来』基金の設立」『ドイツ連邦共和国における「記憶・責任・未来」基金調査報告書』基金調査団発行, 2000年

⑥書評

- ・「ゲオルグ・G・イッガース『ヨーロッパ歴史学の新潮流』中村幹雄・末川清・鈴木利章・谷口健治訳(晃洋書房, 1986年)」『社会経済史学』第52巻第5号(1986年12月)
- ・「大塚忠『労使関係史論—ドイツ第2帝政期における対立的労使関係の諸相—』(関西大学出版部, 1987年)」『関西大学経済論集』第37巻第3号(1987年9月)
- ・「G.チブラ『世界経済と世界政治 再建と崩壊 1922-1931』三宅正樹訳(みすず書房, 1989年)」『図書新聞』第645号(1989年6月17日)
- ・「藤田幸一郎『都市と市民社会—近代ドイツ都市史—』(青木書店, 1988年)」『三田学会雑誌』81巻3号(1988年10月)
- ・「一条和生『ドイツ社会政策思想と家内労働問題』(御茶の水書房, 1990年)」『日本労働研究雑誌』

第373号（1990年11月）

- ・「中村幹雄『ナチ党の思想と運動』（名古屋大学出版会，1990年）」『社会経済史学』第56号第5号（1990年12月）
- ・「F.-J. Brüggemeier/Th. Rommelspacher (Hrsg.): Besiegte Natur. Geschichte der Umwelt im 19. und 20. Jahrhundert, München 1989 (1987¹)」『三田学会雑誌』84巻2号（1991年7月）
- ・「川越修・姫岡とし子・原田一美・若原憲和『近代を生きる女たち—19世紀ドイツ社会史を読む』（未來社，1990年）」『三田学会雑誌』84巻4号（1992年1月）
- ・「デートレフ・ポイカート『ナチス・ドイツ—ある近代の社会史—』木村靖二・山本秀行訳（三元社，1991年）」『社会経済史学』第58巻第2号（1992年6/7月）
- ・「近藤和彦『民のモラル』（山川出版社，1993年）」『社会経済史学』第60巻第5号（1994年12月／1995年1月）
- ・「永岑三千輝『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』（同文館出版，1994年）」『社会経済史学』第62巻第1号（1996年4/5月）
- ・「永岑三千輝『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』（同文館出版，1994年）」『三田学会雑誌』89巻1号（1996年4月）
- ・「栗原優『ナチズムとユダヤ人絶滅政策』（ミネルヴァ書房，1997年）」『社会経済史学』第64巻第4号（1998年10/11月）
- ・“Rezension zu K. Schönwälder: *Einwanderung und ethnische Pluralität. Politische Entscheidungen und öffentliche Debatten in Großbritannien und der Bundesrepublik von den 1950er bis zu den 1970er Jahren*, Essen 2001”, in: *Westfälische Forschungen*, Bd. 53 (2003)
- ・「川越修『社会国家の生成—20世紀社会とナチズム』（岩波書店，2004年）」『図書新聞』2695号（2004年9月25日）
- ・「近藤潤三『移民国としてのドイツ—社会統合と平行社会のゆくえ—』（木鐸社，2007年）」『史学雑誌』第117巻第12号（2008年12月）
- ・「石田勇治・武内進一編『ジェノサイドと現代世界』（勉誠出版，2011年）」『図書新聞』第3028号（2011年9月3日）
- ・「鶴沢歩編『ドイツ現代史探訪—社会・政治・経済』（大阪大学出版会，2011年）」『経営史学』第49巻第2号（2014年9月）
- ・「伊藤セツ『クララ・ツェトキーン—ジェンダー平等と反戦の生涯』（御茶の水書房，2013年）」『女性とジェンダーの歴史』第2号（2014年11月）

⑦その他

- ・「労働運動と女性—総括シンポジウム」『現代史研究』第32号（1985年）
- ・「西ドイツ社会史の社会史的考察」『三色旗』第484号（1988年4月号）
- ・「統一ドイツとオーデル・ナイセ国境線」『三色旗』第510号（1990年9月号）
- ・「鷺見洋一・不破有理・松村高夫・宮崎洋・矢野久・大島通義「座談会 社会史のすすめ」」『三色旗』第523号（1991年10月号）
- ・「社会史文献案内」『三色旗』第523号（1991年10月号）

- ・「ヨーロッパ：現代：ドイツ（1992年の歴史学会：回顧と展望）」『史学雑誌』第102巻第5号（1993年5月）
- ・「アウシュビッツ・絶滅政策・近代」『三色旗』第559号（1994年10月号）
- ・神田順司・矢野久「対談 ドイツの学問的風土」『三色旗』第565号（1995年4月号）
- ・「ドイツにおける戦争責任と戦後処理—西尾幹二氏への批判」『三色旗』第577号（1996年4月号）
- ・「ナチス強制収容所とユダヤ人虐殺」『三色旗』第592号（1997年7月号）
- ・「ドイツ『記憶・責任・未来』基金の歴史的意義」『世界』第682号（2000年12月）
- ・「21世紀のマニフェスト 戦争・植民地支配責任をいかに果たすか」（阿部浩己・金富子・丸川哲史との共著）『世界』第689号（2001年6月）
- ・「戦争・植民地支配責任をいかに果たすか」金子勝・藤原帰一・山口二郎編『東アジアで生きよう！ 経済構想・共生社会・歴史認識』（阿部浩己・金富子・丸川哲史との共著）岩波書店，2003年
- ・「わが青春のひとコマ」『慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学』第36号（2003年3月）
- ・「慶應義塾図書館所蔵ドイツ語雑誌（経済・社会・歴史）解題」（共著）慶應義塾図書館ホームページ掲載（2003年5月）
- ・「社会史研究の現場から」『三色旗』第725号（2008年8月号）
- ・「文書館の一次史料と居住の社会史」『三色旗』第725号（2008年8月号）
- ・「日常性の中の季節—歴史学の転換」『三色旗』第775号（2012年10月号）